

東海ぶらら  
倶楽部  
presents

東海村発足60周年記念  
村立図書館開館30周年記念

# 写真展「東海村の今いまむかし昔」



東海村の今と昔の姿を写した写真展の開催(期日▼8月1日(土)～30日(日)、場所▼村立図書館)に伴い、今月号から、その懐かしい写真をちょっとだけご紹介していきます!

## 東海中学校旧景(昭和30年9月)

いまだ原研通りはなく、正門は旧道に面し南向きで、北側(上部)の「下の内」地区は、松林や畑ばかりである。東海中学校は昭和23年4月1日、村松石神組合立東海中学校として、村松・須和間・石神の各小学校からほぼ等距離にある現在地に開校した。校名は幕末水戸藩の先哲・藤田東湖の「正気歌」の一節「卓立す東海の浜」からとられたという。そして昭和30年3月31日、東海村の誕生に際し、この中学校の名を新生東海村の名としたのである。

ふるさと歴史訪 ー自然を探してー

## フジ(マメ科) くつる(まき)の巻ききんぐ

茨城生物の会理事

内山 治男

フジは本州から九州に生育する落葉の木本性つる植物です。観賞用に栽培したり、食用(新芽)、薬用(実・茎)、籠(茎)などに利用したりするほか、家紋等の図柄としても使われます。また、垂れ下がる花序の豪華さと樹齡が長いことから、おめでたい木とされています。

村内で見られるフジは、別名をノダフジ(野田藤)といます。ノダフジは、植物学者の牧野富太郎先生により、フジの名所であった大阪市福島区野田から名前が付いたといわれています。野田のフジは、江戸時代に「吉野の桜、野田の藤、高尾の紅葉」といわれ有名でした。フジに似た種類で、本州の近畿以西から九州にかけて生育するヤマフジがあります。ヤマフジは、



須和間地内

フジの園芸種を接ぎ木するときには台木として使われることがあるそうです。フジとヤマフジは似た種類ですが、つる(茎)の巻き方が異なります。フジは左手巻



古くから人々に愛されてきた植物ですが、成長が早く、スギなどの樹木に巻きついて幹を傷つけたら、樹冠に日が当たらなくなるほど覆ってしまい、樹木を枯らしてしまったりすることもあるので、つる植物のクズと同じく厄介な植物でもあります。

き(左巻き)、ヤマフジは右手巻き(右巻き)です。左手巻きは、茎が樹木に絡まり茎が伸びていく方向に左手の親指を出したとき、握った4本の指の付け根から指先方向に巻きつきます。その反対が右手巻きです。植物の茎の巻き方の定義は、植物図鑑等によって異なることがありますので、図を見て確認することが大切です。

フジの花は、田植えのころに咲き始めます。切り花で飾りたいときは、水揚げを良くするために切り口を砕いたり、花瓶の水や切り口などを殺菌するために、おちよこで2杯程度のお酒(アルコール)を花瓶に加えるなどの生け方もあるそうです。